# 鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
（平成 26 年 2 月 28 日）

**【二一】子曰く、中行を得て之と与にせずんば、必ずや狂狷か。狂者は進みて取り、狷者は為さざる所有り。**

孔子が言うには、調和の取れた人達を友人にすることが出来ないようならば、（狂は）熱狂的な人間、（狷は）強情な人間を友人にするが良いでしょう。何故なら狂者は、情熱が溢れているし積極的に行動をする人である。狷者は絶対妥協しないけれども悪いことはしない。だから穏やかで調和の取れた人物を友人にすることが出来ない時は、情熱的な人間を選ぶか、強情な人間を選ぶかしたらよい。

孔子は偏った人間を友人にすると良いと勧めています。可もなく不可もなく付和雷同型はあまり友達にしないで、それなりの意見を持った人間と付き合うのが良いでしょう。

**【二二】子曰く、南人言えること有り。曰く、人にして恒無きは、以て巫医を作すべからずと。善いかな。その徳を恒にせずんば、或は之に羞を承むと。子曰く、占わざるのみと。**

孔子が言うには、南国の人がこう言ったそうだ。人徳があって、穏やかで素晴らしいという人であれば良いのだが、変わりやすい人間、常に考え方が変わる人は、巫女や医者には、ならない方がよい。言い方を変えれば巫女や医者は一貫している人物が良い。主張がころころと変わる人間は、なってはいけないという言葉は非常に良い言葉である。易経に人徳を常に持っている人間でないと、人様から辱められることがある。これはよく当たっていることだね。

首尾一貫した考えをもたない人間は、そのような職業に就いてはいけないと孔子が言っているということです。

**【二三】子曰く、君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。**

心から打ち解けられるような人は君子である。そういう人は上辺だけ同調することは無い。心の狭い人間（小人）は、上辺だけは友達になれるけれども、本音から一致することは無い。

現代風に変えますと、日本維新の会と自民公明を考えればよいでしょう。自民党と公明党は上辺だけは政権を維持するために歩調を合わせようとするけれども、本音では一致するわけがない。

「小人和して同ぜず」は自民公明のことであるし、日本維新の会も同じくで、上辺だけは同調するけれども本音は違う。だけれども政権を取りたい、政権の座に就きたいということで、上辺だけ同調している。特に際立っているのは、日本維新の会です。フラフラしながら橋下さんと石原慎太郎さんをくっつけてしまった。政権欲だけにみえる。古くは自民と公明、ちょっと前になると自民党と社会党も壊れてしまったけれども、そういうことがありました。

周りを見渡すと近寄ってくる人と友達になる。何らかの組織で、さほど親しくないと思っている人間が近寄ってきて色々とゴマをする場合は、一体この人の本音は何だろうと考える時に「君子は和して同ぜず」を頭の中におくと、お付き合いの仕方も定まってくるでしょう。